

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

# 厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 93

2024.1

美濃田の竹林街道



## もくじ

新年のごあいさつ .....	2
第3 血管造影室の増設で心血管疾患の治療をさらに強化！ .....	3
第31 回病院祭開催 .....	4
患者の安全を第一に考えた提供食材の見直し .....	5
看護師特定行為研修を終了して／緩和ケア病棟の復棟にあたって .....	6
口腔ケアプロジェクト／乳がん看護認定看護師 .....	7
当センターの治療食紹介 .....	8

CHECK!



JA三重厚生連の  
取り組みを紹介!

# 新年のごあいさつ



経営管理委員会 会長 谷口 俊二

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じ、心よりお慶び申し上げます。平素は厚生事業に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻や中東情勢の不安定化などにより、食料の多くを輸入に頼るわが国において物価が高騰し、社会経済や国民生活に大きな影響を与えています。また、生産資材や飼料、燃料等の価格高騰は、農業生産の現場に大きな影響が出ており、持続可能な農業生産や食料の安定供給等、食料安全保障の確立が喫緊の課題となっています。このことから、食料・農業・農村基本法の見直しが進められております。

J Aグループ三重では、自己改革工程表の取り組みを継続・深化させ、持続可能な組織基盤・事業基盤を確立するために、食と農を基軸として地域に根差した協同組合であるJ Aらしさを発揮しつつ、デジタル化・グリーン社会の実現に取り組んでまいります。

厚生事業においては、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、通常診療と感染症治療の両立を図り、事業運営に取り組んでまいりました。今後は、感染症法改正を見据え、公的医療機関の使命を全うするため、今後発生しうる新興感染症の治療に積極的に取り組んでまいります。また、令和6年度から始まる中期経営計画においては、収益の回復と将来の次期施設整備計画に備えた自己資本の充実に向け、各事業所の診療機能を強化し、安全で安心な質の高い医療提供体制の確立を目指します。

本会は、J Aグループの一員として組合員及び地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるよう、選ばれる病院づくりを目指し、役職員一丸となって邁進する所存でございます。今後ともなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。



代表理事 理事長 庄山 隆裕

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素は本会事業に対し、温かいご支援を賜りますこと厚く御礼申し上げます。

私たちの生活に大きな影響を及ぼした新型コロナですが、今では感染者も少なくなり、警戒感も薄れてきました。このところの訪日外国人観光客の多さをみると、時代は確実にポストコロナに移行したと思います。我々医療機関は、これからも感染対策を行いながら診療を行っていかねばなりません。一つの区切りとして、コロナ禍の4年間、厚生連事業・地域医療を支えてくれた職員一人ひとりの頑張りにも心から感謝申し上げます。

昨年は、WBC優勝、ラグビーワールドカップの激闘、また男子バレー・男子バスケットではパリ五輪の出場権を獲得するなど、スポーツ界は世界を相手に戦う日本選手の活躍が光った一年でした。一方、長期におよぶウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの戦闘では、緊迫した状況、惨状が連日報じられ、悲しい思いをした年でもありました。一刻も早く戦争が終結し、再び平和が訪れますことを心から願います。

病院経営では、未だコロナ前の患者数に戻っていない中で、エネルギー関連費の高騰、医療材料、食材等の値上げが続いており、経営の回復・改善を妨げています。政府の支援策と、診療報酬改定の行方にもよりますが、ここ数年が試練の年となりそうです。現在、本会では中期経営計画（令和6年度～8年度）を策定しています。一番の課題は「深刻なダメージを負った病院経営・運営をどう建て直すか」ですが、厳しい時代だからといって消極的になるのではなく、むしろ「人・モノ」にしっかりと投資をして、それを原動力に、この難局を乗り切っていきたいと考えています。

時代の流れの中では、いろいろなことが起こります。これまでもこうした難局を乗り越えてきましたし、我々にはそうした力があると信じています。

今年は「甲・辰（きのえ・たつ）」。成功につながる努力の芽がどんどん育ち、姿を整えていく年だとか。『さあ 行こう！』隆盛を願って、共に頑張ることを誓い、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 第3血管造影室の増設で心血管疾患の治療をさらに強化！

松阪中央総合病院 副院長・心臓血管センター長 谷川 高士



血管造影室を使用する治療は確実に増えてきています。

心筋梗塞や狭心症など冠動脈疾患に対するカテーテル治療に加え、下肢動脈疾患や脳血管疾患などの末梢動脈疾患に対してもカテーテル治療が積極的に行われるようになってきました。また、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術や心房細動に対するカテーテルアブレーション治療（経皮的心筋焼灼術）も血管造影室で行いま

す。さらに、大動脈疾患に対するステントグラフト治療や心臓弁膜症に対する経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）や経皮的僧帽弁クリップ術（MitraClip）などの最新治療も血管造影室（正式にはハイブリッド手術室）で行われます。

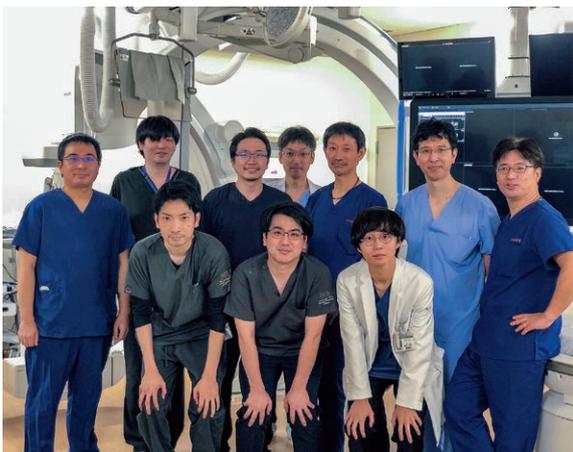
当院で血管造影室を使用するのは、循環器内科、脳神経外科および放射線科です。第2血管造影室は、循環器内科の専用室であり、主に冠動脈疾患と下肢動脈疾患に対するカテーテル治療を行います。第1血管造影室は脳神経外科と循環器内科、そして放射線科が曜日を分けて使用し、循環器内科ではカテーテルアブレーションやデバイスの植え込み治療を中心に施行してきました。

今回増設された第3血管造影室には、フィリップス社製の最新型循環器用バイプレーン血管撮影装置（Azurion Biplane）が設置され、冠動脈造影検査とともにカテーテルアブレーションやペースメーカーなどのデバイス植え込み術を中心に治療を行っ

ています。この装置は2つの管球を使用し、2方向から同時に撮影することができ、腎機能の悪い患者さんや複雑な手技を必要とする患者さんにも貢献します。様々な最新技術の手技支援アプリケーションも搭載されており、低被爆被と高画質を両立し、手術時間の短縮にもつながります。患者さんの負担を軽減するとともにスタッフにもやさしい新世代の装置です。

第3血管造影室の増設により、カテーテル検査や治療に最適な装置を選択することが可能となり、急性心筋梗塞などの緊急処置にも迅速に対応できる環境が整いました。また、複雑なカテーテル治療を必要とする症例にも対応できるため、より安全で安心な医療を提供できるようになりました。最新機器を治療に活かし、これまで以上に質の高いカテーテル治療を目指していきます。

松阪地域における急性期治療の基幹病院として、循環器救急を含めた幅広い診療に貢献できるようスタッフ一丸となって対応していきます。



## 第31回病院祭開催

当院では、令和5年10月21日に、鈴鹿厚生病院 病院祭を開催しました。今回で第31回となる病院祭ですが、令和元年の第30回を最後に新型コロナウイルス感染症拡大のため、4年にわたり開催見合わせとなっております。しかし、中止となっていた間も毎月の実行委員会にて、皆様に安心してお越しいただけるような開催方法について検討を続け、規模を縮小する形ではありましたが、今回再開することが出来ました。

当日は不安定な天候で、秋らしくも肌寒い日となりましたが、開場前から受付前には長い列が出来るほど、朝から沢山の方にお越しいただきました。院長による開会の挨拶とテープカットで病院祭が始まると、グラウンドのメインステージでは、職員によるエイサーやバンド演奏、近隣保育園の園児の皆様によるダンスが披露されました。カメラを向ける保護者の皆様に囲まれてのびのびと楽しくダンスを踊っている姿は、久しぶりであった病院祭を大変活気づけてくださいました。また、今

年は三重県防災対策部の方にご協力をいただき、地震体験車を用いた防災対策の啓発活動も行われました。こちらも人気であり、100名以上の方に体験していただきました。ここでは普段の生活では忘れてしまいがち、防災意識を高めていただけたのではないかと思います。

他にも、当院医師による講演「誰でもわかる認知症」の開催や、感染予防体験、作業療法体験、当院を利用されている皆様の作品の展示といった病院ならではのイベントや、小さなお子様にも楽しんでいただけるような亀レース、ストラックアウトなどのアトラクションも開催しました。お越しいただいた皆様には、普段なかなかふれあう機会の少ない精神科の病院との繋がりを体験いただけたのではないかと思います。

再開が決定し、スタッフそれぞれがノウハウを振り返るところから始まった病院祭ですが、当日までの長い道のりの中では、開催することができるとか心配になる瞬間もありました。し

かし、先にご紹介した皆様以外にも、学生ボランティアの皆様、はんぺんや洋菓子、野菜や乾物など食品販売店の皆様、そして、なにより当日足を運んでくださいました皆様など沢山の方々のお力添えがあり、無事病院祭を執り行うことが出来ました。ささえあい、ともに生きる。は当院の理念でありますが、皆様に支えられて、我々の方がエネルギーをいただいた一日となりました。ありがとうございました。



鈴鹿厚生病院 病院祭実行委員会

## 患者の安全を第一に考えた提供食材の見直し

令和5年医療安全研究発表会の内容から

大台厚生病院 栄養管理科 川合 美幸

当院の嚥下調整食摂取患者の割合は8年前と比べ6.3%増加傾向にあります。この要因として、当院の患者は大半が大台町・大紀町在住であり高齢化率はそれぞれ42%・50%と高く、高齢化に伴う口腔機能の衰え、また義歯の問題などにより嚥下咀嚼機能低下に繋がっていると思われる。

当院では以前、嚥下咀嚼障害のある方・固いものが食べづらい方には「骨のない魚」(冷凍品)を、それ以外の方には鮮魚である「骨のある魚」を提供していましたが、ある高齢患者の喉に魚の骨が刺さる事例が発生したことをきっかけに、全て「骨のない魚」へ切替えました。冷凍技術の進歩により冷凍品も美味しいとは分かっているものの、鮮魚を提供したいという気持ちは強くありました。しかし、患者の安全には代えられません。栄養科スタッフとともに魚の種類や調理方法の検討を重ね、幸い、切替え後の患者アンケートでは「骨がなく食べやすさ」「魚の臭みは感じない」との意見を多く頂き安心しました。

このように患者に食事の意見を聞き改善につなげる場として、年2回の嗜好調査があります。また、ある日は



▲職員食堂

養指導のために患者さんのベッドサイドに訪れると、同室の患者さんも「いつも美味しいよ。」など気さくに声をかけてくれて嬉しく感じました。また当院では職員食を実施しており、常食と同じメニューを提供することが多く、職員からの「今日の魚は生臭かった」「このメニューには味噌汁をつけてほしい」などの率直な意見も日々聞きながら、改善に努めています。

高齢化が進む中、嚥下咀嚼機能の低下にも目を向け、今後も栄養科スタッフとともに患者・職員に満足してもらえる安全な食事を提供していきたいと考えます。



▲当院の魚料理

看護師特定行為研修を終了して

三重北医療センターいなべ総合病院 入退院支援看護師長  
脳卒中看護認定看護師(特定行為 在宅・慢性領域パッケージ) 二谷 祐子

厚生労働省では、2025年問題に向けた取り組みとして、在宅医療等を支えていく看護師養成を目的とした特定行為に係る看護師の研修制度を設けられました。

特定行為とは、医師の作成した手順書をもとに行う診療の補助であり、特定行為区分21区分、特定行為38行為あります。

私は脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を取得後、医療行為が出来る教育機関誕生を願っていました。

入退院支援看護師として地域と連携をとる中、住み慣れた地域でご家族と暮らす患者さんの生き生きとした姿を見て、在宅療養の大切さを実感しました。また、胃瘻交換や褥瘡処置などで通院が必要な介護度が高い患者さんの存在も知りました。日本看護協会が特定行為研修を受講させて頂き、在宅・慢性領域パッケージの特定行為研修を終了しました。今後、通院が困難な患者さんの療養を支援することが出来たらと考えております。明らかなビジョンは決まっておりますが、病院と行政を含めた地域が連携し、

通院することなく住み慣れた地域(在宅)で医療処置が行えることが可能になればと思います。

一年間の研修期間でしたが、共に学んだ研修生とは、今も繋がっており近況を報告し合っています。

研修での学習は自分の宝物になりましたので、多くの看護師の方に特定行為研修を受講して頂きたいです。



(写真は鈴鹿中央総合病院の吉田さんとの修了式前日の学習風景と修了式の看板です。)

※吉田さんのことは、入校後三重県厚生連の看護師であることを知りました。

緩和ケア病棟の復棟にあたって

鈴鹿中央総合病院 緩和ケア病棟 看護師長 松元千陽

新型コロナウイルス感染症対応のため、一時閉棟となっていた緩和ケア病棟が令和5年10月より復棟しました。

「患者さまとご家族の思いを尊重し、残された大切な時間をその人らしく過ごせるよう支えます」という理念のもと、主治医、病棟看護師、緩和ケアチームなど多職種で構成されたチームで患者さまとご家族を支えていきたいと考えています。

病棟では主に、がんによる苦痛を抱える患者さんの症状の緩和に努めます。また、個々の患者さんを全人的に捉え、「尊厳あるひとりの人」として最期までその人らしく過ごせる方法を多職種で検討し、看取りのケアも行います。

患者さんとその家族に寄り添ったケアを提供するため、「患者さんに今できることは何か」ということを日々のカンファレンスでディスカッションすることを大切にしています。

新しくスタートを切ったばかりですが、最善の医療、ケアを提供できる医療チームを作っていけるよう努力していきたいと思っております。



## 口腔ケアプロジェクト

三重北医療センター 菟野厚生病院 N3回復期病棟 堀木 年

口の中を清潔にすることは、歯や口の疾患を予防し、口腔の機能を維持することが出来ます。また、口腔ケアは生活の質向上だけではなく誤嚥性肺炎などの全身疾患の予防、全身の健康状態の維持・向上にもつながります。

当院も高齢の入院患者が多く、看護師は患者さんの口腔ケアを日々行っています。しかし、口腔内の乾燥がひどく舌苔除去が困難であり出血傾向のある患者さんへのケアに苦慮していました。また、適正な口腔ケアの方法・手



順などをわからないまま口腔ケアを行っていた現状がありました。8月より歯科衛生士に勉強会の依頼を行ったことから口腔ケアプロジェクトが立ち上がり、10月から毎週火曜日、歯科衛生士を招き口腔ケアラウンドをスタートしました。まだ始まったばかりですが、歯科衛生士に多くの質問をしたり、身を乗り出して指導を受けています。これからもっと患者さんの口の中がキレイになっていくようにスタッフみんなで頑張っていきたいです。

## 乳がん看護認定看護師

松阪中央総合病院 看護部 本津 美穂



2019年に乳がん看護認定看護師の資格を取得し、現在は外来に所属しています。

当院ではがん看護外来を開設しており、治療の意思決定支援、治療の副作用に対するケア、症状緩和など、専門的な知識をもとに、医師や薬剤師、社会福祉士などと協働しながら、患者さんが安心して治療を継続できるよう努めています。

がんの治療は多様化し、複雑化してきていますが、特に乳がん治療においては進歩が著しく、乳がんのタイプに応じて患者さんそれぞれの治療方針が異なるなど複雑な状況です。患者さんには、がんを診断されて混乱している中でも、病気を理解し、がんの治療を評

価して自分にとって最適な治療方針を意思決定していく必要があります。そんな時、少しでも不安が和らぐよう患者さんに寄り添い、納得した意思決定ができるよう話し合ったり、治療を進めながらも自分らしく生活できるよう、ご家族も含めて支えていくことが私の役割だと考えています。



## 当センターの治療食紹介

「香味野菜・香辛料を生かした減塩食」

南島メディカルセンター 管理栄養士 押尾 高子

高血圧予防として、1日の塩分摂取量を6g未満にすることが望ましいとされています。塩分には調味料に含まれる塩分以外に、食品に含まれる塩分(加工食品等)もあるため、加工品の利用頻度が多い方は注意しましょう。少ない塩分量でもおいしく食べられるように、酸味の活用や、香味野菜・香辛料を使用して、減塩食でもおいしく食べる工夫を取り入れた当センターのある日の夕食をご紹介します。

### 栄養量 (1食1人分)

- エネルギー量: 610 kcal
- たんぱく質: 26g
- 脂質: 11g
- 塩分: 1.8g

### ごはん: 180g

### 鮭の焼き浸し

#### 【材料】(1人分)

- 鮭: 1切
- 酒: 1g
- たまねぎ: 30g
- 青しそ: 1枚
- みりん: 3g
- しょうゆ: 5g
- 酢: 5g

#### 作り方

- ① たまねぎをスライス、青しそを千切りにする。たまねぎは水にさらし水気を絞り、青しそと合わせておく。
- ② みりん、しょうゆ、酢を火にかけて、アルコールを飛ばして冷ましておく。
- ③ 鮭は酒を振り、少ししてから水分をペーパーで取り、焼く。
- ④ 鮭に①を乗せ②をかける。

★香味野菜を使用することで香りよく、酢を使用することで味が引き立ち、塩分を減らしてもおいしく食べることができます。

### じゃがいもカレー煮

#### 【材料】(1人分)

- 豚小間: 10g
- じゃがいも: 70g
- たまねぎ: 20g
- にんじん: 10g
- グリンピース: 5g
- カレー粉: 0.5g
- しょうゆ: 4g
- 砂糖: 3g
- だし汁: 適量

#### 作り方

- ① たまねぎはくし形、じゃがいも、にんじんは乱切りにする。グリンピースはざっと茹でる。

### いんげんおかか和え

#### 【材料】(1人分)

- いんげん: 50g
- にんじん: 10g
- かつお節: 適量
- しょうゆ: 2g

#### 作り方

- ① にんじんは細切り、いんげんは3cmくらいに切る。
  - ② ①を茹でて水気を切り、冷ます。
  - ③ ②をしょうゆ、かつお節で和え盛り付ける。
- ★かつお節のかわりに、ごまを使用し香ばしさをプラスしてもOK。



JA三重厚生連

人に 地域に やさしい看護

募集!! 薬剤師 看護師 介護福祉士 看護補助員



厚生連だより Vol.93

発行/三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354  
http://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。